

令和八年度がスタートしました。本年は、倫理運動創始八十周年、倫理法人会創設四十五周年という節目の年にあたります。この記念すべき年に、全国の代表者が一堂に会する「倫理法人会全国代表者大会」が、十月三日から四日にかけて、グランドプリンスホテル新高輪にて開催されます。

本大会は、先人の足跡と偉業に心を寄せ、感謝の思いを深めるとともに、今後の倫理法人会の進むべき道を明確にし、次代へとバトンをつなぐ決意を新たにすることを目的としています。

今月は、一年の「よきスタートを切る」べく、全国各地で倫理法人会の重要行事である「年度はじめ式」が開催されます。この式では、四十七都道府県・七六三の単位倫理法人会に所属する、約一万八千名の役職者に辞令が交付されます。初めて役職を受ける皆様はもちろん、引き続き同じ役職を務める皆様にも、心新たに取り組んでいただければと思います。

「役は人をつくる」と言われます。「役」とは「立場」のことであり、それぞれの役職の立場を理解し、職務を全うすることによって、これまで以上に自己の個性（たち）を伸ばし、身近で大切な家族や社員を幸せにすることができるようになります。

「役を知り・役に徹して・役を超えない」をモットーに、この一年間の取り組みを通じて、役職者の皆様には「役得」、すなわち（役職を受けて本当によかった）と感じていただける体験をしていただきたいと思います。



節目の行事や催し事を活かして 心新たに一步を踏み出そう

ております。

一方、会社や職場において一日の「よきスタートを切る」ために、倫理法人会が推進しているのが「活力朝礼」です。倫理研究所の創立者・丸山敏雄は、「式をとる」ことの重要性を説きました。朝礼もまた、仕事に向かうための儀式、「働きの式」ということがいえるでしょう。

就労支援事業所を営むK社長は、倫理法人会に入会以来、精力的に諸活動に取り組む中で、特に注目したのが『職場の教養』を活用した活力朝礼でした。K社長は長年、職場を和やかで明るい雰囲気にしたといいたい、会員企業が実践する活力朝礼の様子は、とても新鮮に映りました。そこで、朝礼を一日二回導入することを決断したのです。

一回目の朝礼は職員のみで行ない、約一時間後に行なわれる二回目の朝礼では、施設利用者を含めた四十五名による全体朝礼を実施しています。特に力を入れているのが、二回目の朝礼で、『職場の教養』を活用し、事前に担当者を決めて、施設利用者に輪読してもらう形式を取り入れることです。すると、徐々に施設内の雰囲気や和やかで明るくなり、（スタッフと利用者の良好な関係を、一日の始まりである朝から築けるようになった）と、K社長は活力朝礼の効果に手ごたえを感じるようになりました。

一日、一カ月、一年、十年と、それぞれの始まりにおいて、良きスタートが切れるよう、行事や催しといった節目を設け、新たな心で一步を踏み出してまいりましょう。